

## 第 1 回中野市美術館運営準備委員会 会議録（概要）

日 時	令和 8 年 5 月 20 日（水） 10：00～11：45
会 場	中野市役所 4 階 会議室 41・42
出席者等	<p>【委員】 別添名簿のとおり</p> <p>【市】 市長、秋元くらしと文化部長</p> <p>【事務局】 荒井文化スポーツ振興課長、宮澤文化振興係長、佐々木副主幹、市川副主幹、丸山主事、水橋学芸員</p>
欠席者	なし
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 委員長及び副委員長の選出について</li> <li>4 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) (仮称) 中野市美術館について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 委員名簿</li> <li>・ 中野市美術館運営準備委員会設置要領</li> <li>・ 第 1 回中野市美術館運営準備委員会資料</li> <li>・ 【別紙資料 1】 博物館法制度上の博物館の区分と現状（文科省HP資料）</li> <li>・ 【別紙資料 2】 博物館類似施設</li> <li>・ 【別紙資料 3】 受益者負担の適正化に関する指針</li> </ul>

- 1 開会（くらしと文化部長）
- 2 市長あいさつ
- 3 委員長及び副委員長の選出について  
委員長に市川篤志委員、副委員長に有賀透委員が互選される。
- 4 協議事項（議長：市川会長）
  - (1)（仮称）中野市美術館について

**【事務局】**

- ・第1回中野市美術館運営準備委員会資料を基に説明を実施

**【事務局】**

こちらからの全体的な説明をさせていただく。全体で5回の会議であり、各回は資料に記載の内容で会議を進めたいと考えている。今日の会議は1回目であり、自由な意見を出していただきたい。

**【委員】**

- 第1回目の会議で決めていただくこともあるが、自己紹介も含めてそれぞれこの新しい美術館をどんなイメージで、どんなことを期待して、あるいはもっと具体的なこと等、現時点で考えていることを委員10人お話いただきたい。

**【委員】**

- 子育てをしているので子ども目線であるが、幼稚園・小学生の児童等の実際に作った作品を展示するのが一番集客できるイメージがあり、自分の子どもや、知人の子どもの展示がされていれば絶対に行きたいし、そこでカフェを利用して、隣接の図書館へ行けるし、動線の流れもよいと思う。
- 以前は会津若松市に住んでおり、そこでは博物館建物の中に美術館があった。そこではカードを配布し、建物内のチェックポイントを全て回ると最後に絵本がもらえるイベントがあった。子どもと親と一緒にできるイベント等の企画も今後必要でないかと感じている。

**【委員】**

- 以前に4年間、飯綱町のアップルミュージアムで外部委員をしていた時は、小中学生の学校ごと選抜された絵画が展示されており、そういった展示はよいと思う。

- 展示中に、次の展示企画についての案内についてDMを置いておくなど、ポスター掲示だけではなく、スタッフ等が声掛けやSNS等で周知するよう力を入れたらどうか。

#### 【委員】

- 3月に実施したワークショップに参加していたが、内容がカフェ寄りの意見が多かったような印象であった。伊那市立図書館で8年間働いており、収蔵資料デジタルアーカイブをどう活用していくかをやっていた。中野市でも収蔵資料が約700点あるとのことで、自分たちでキュレーションし、「自分たちの美術館」としてスタートするのもよいのではないか。デジタルデータを見た子が、本物を見たいとそこへ出向き、本物で感動したとの話もあるので、デジタルとリアルを融合できる体験等も含めてコンセプトに取り入れたらよいと思う。

#### 【委員】

- お金を払ってまでこの美術館に行きたい人が何人いるか気になるが、まず中野市にどのような作家の美術品がどのくらいあるかという資料を拝見し、この美術館に必要な展示作品を検討したい。集客には子ども・大人目線も大事であるが、市の収蔵している美術作品を多くの人に広めていくのが役割だと思う。また収蔵している美術作品の常設も必要であるが、現在中野市で活動している方等の美術作品を展示し広めていくのも役目だと思う。
- 先日、一本木公園内で菊池契月展示会に行ったが、観覧無料でも閑散としており、集客に関する情報発信が大事だと思う。「広報なかの」は月1回届くが、仕事をしている時は1回も見たことがなく、昨年退職して改めて見たところ、色々な情報が掲載されていた。月1回見なかったら市内で何をしているか分からないので、情報発信方法を更に検討し、多くの人を知る機会を作れる仕組みが必要と感じる。
- 美術作品の作家の歴史も学べるとよい。

#### 【委員】

- 図面について、作品を搬入・展示するにあたり、車での搬入場所、扉寸法、展示ガラス寸法、展示室真ん中の壁等は考慮しているか。また図面通りであるか。  
⇒（事務局回答）図面はイメージ図であり、全て考慮している。また展示室真ん中の壁は可動式パネルであるため、移動は可能である。
- 博物館類似施設ということで学芸員の配置はしないのか。  
⇒（事務局回答）常勤ではないが、必要に応じ配置する。
- 市内の美術作品展示施設等を一周してもらい、近隣市町村を含めた美術館企画を実施したらどうか。
- 観覧料は固定ではなく、展示内容による変動制もよいのでは。

○ワークショップスペースの貸し出し、展示販売、カフェ利用券の活用した運営もよいのでは。

**【委員】**

○公益な視点は大事であり、柔軟なプライシングも必要では。何か条例で料金を一律に決めるわけではなく、フレキシブルに出来るようにするのが大事である。

**【委員】**

○最初は物珍しさの興味が有り美術館へ来る人は多いと感じるが、何回も来る人は少ないと感じる。

○菊池契月は知っているが、生い立ちまで知っている人は少ないと感じるので、それも含めた展示がよいと感じる。また、子どもたちが、この地の先輩がこのような作品を作成し、本物に触れる機会が必要と感じる。

**【委員】**

○子どもの頃の原体験は重要であり、大人になっても覚えている。こういった経験が増えると地元への愛着が沸き、地域を離れてもまた帰ってくる人が多いため、関係人口を増やす施策にもなる。

**【委員】**

○美術や音楽等は心を豊かにする。図書館であれば「良書は心を耕す」ということで、美術館と図書館のセットでやっていくと、子どもの心の健やかさの相乗効果が期待されると感じている。また、何回も行けるようにすることで、感動が子どもにとって一番心を耕していくので、何回も行けるような200円以下の価格設定がよいと思う。

○名称については、「ふるさと」という言葉はずっと大事にしてきているので、老若男女が楽しめて元気をもたらしていけるよう、「中野市ふるさとくつろぎ美術館」、「中野市くつろぎふるさとミュージアム」と言う名称もよいかと思い、ちょっとくつろげて、「ふるさと」というものを感じられるような美術館がよいと思う。

**【委員】**

○個人的に菊池契月に興味はなく、伊藤若冲には興味があり、東京の美術館まで行ったことがある。契月がこの逆のパターンになればよいと考えている。最初は美術館が図書館横に建設されると聞いて、あまり興味がなかったが、美術館にカフェがあり、図書館との連携も考えていると聞いて、これなら行ってみたいと考えるようになった。

○複数回来てもらうには、情報発信の方法が大事である。

○絵画の主な展示は菊池契月が位置づけられているが、郷土史についての主な展示はど

のように位置づけられるか。また、一般の方にも分かりやすい展示が必要では。

**【委員】**

- 運営費を補填するためにネーミングライツはどうか。
- 30年前に現在の一本木公園のバラに現在の市長が非常に力を注いで、いい時も悪い時もあったが、現在も続いている。これから新しく作ろうとしているものに対し、前向きにとらえ、地域が楽しめ喜べるような美術館になっていければと思う。

**【委員】**

- 美術館について文化、芸術、歴史等いろいろな意見があるが、全ての内容をこの美術館に入れ込むのは難しいような気がする。中野市ではいろいろな展示施設があるので、仲良く連携し一緒にやっていくのが大事だと思う。近隣市町村も含め検討すればよいかなと思う。

**【委員】**

- 可能であればバラまつり期間中にこの美術館も含め、一本木公園内の旧中野小学校、中野陣屋・県庁記念館にもバラに関係する企画展を実施してもらいたい。
- 集客に関しては、インスタなどSNSで少し有名なアーティストを呼べばファンの方もいるので、県外からも多くの集客が見込めると思う。

**【委員】**

- 市内での展示の連携や、バラまつり期間には、市内展示場をバラ一色にすれば集客効果が見込める。また、行政だけで全部実施することは困難なので、市民も含めての実施検討も必要ではないか。
- 駐車場問題については、既にある観光施設等をバス等で回遊できるようにし、現在光があまり当たってない施設を取り込めばよいのではないか。
- 市内だけでは集客がある程度見込めてしまうので、市外の人にも来てもらうにはSNS等を利用した情報の開示が必要と感じる。既に今ここでやっている委員会もリアルタイムは難しいが、その日のうちに発信するのが大事と感じる。
- また、新聞報道等では建設に賛成だけでなく反対の意見もあるが、SNS等だと内容についての情報も発信できるので大事と感じる。

**【委員】**

- 情報を受け取る手段は年代層によって様々なので、いくつかの情報発信手段をどの年代に発信するのかフィールド設定が必要である。

**【委員】**

- 中野市にしかできないことをしたらどうか。子どもたちが菊池契月の話とかしていれば面白いと思う。自分で好きな作品の図録を作るとか国会図書館のジャパンサーチ的な機能もよい。
- 日本土人形資料館や中野陣屋・県庁記念館等が散らばって行きにくいので、各施設の作品を少し美術館に置いて興味を持って行ってもらう展示もよいのでは。更に周遊バスを運行し、いろいろな施設へ行ける取り組みもよいと感じる。

(2) その他 なし

5 その他

謝礼については、全5回の会議開催後に支払う。

6 閉会（くらしと文化部長）

終了 11時45分